

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Values include 0175000660, NPO法人すばる, グループホーム夢, 北見市留辺薬町旭一区243番地8, 平成28年8月23日, 平成28年10月7日.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, Value: saku.jp/01/index.php?action kouhyou detail 2016 022 kani=true&JigyosvoCd=0175000660-00&PrefCd

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Values include 有限会社 NAVIRE, 北海道北見市とん田東町453-3, 平成28年9月20日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道39号沿い留辺薬町市街地の西側に位置し、レストラン、コンビニが近隣あります。移転してから1年が過ぎ地域環境に慣れてきたところです。これから職員と共に地域住民と交流を深めていこうと思います。年間行事の中に春は、牡丹園を観に出掛け、夏はホーム前での焼き肉、山の水族館見学、夏祭りに参加。秋は町内会の祭り、菊祭りに出掛けています。毎年大正琴サークルの皆さんに来て頂き、懐かしい曲を演奏、今年は歌手を呼び歌謡ショーご家族と共に収穫祭を楽しんでいます、日常生活は利用者の希望や要望を聞き、レクレーション、職員と一緒にドライブに出掛けています、また地域のイベントに積極的に参加しています。私たちは利用者の残された力を活かし、毎日楽しく明るく、お互い支えながら穏やかな生活を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年北見市留辺薬自治区に開設され、平成27年に現在地に新築移転されたグループホーム夢は開設時からの「長い人生の主役です 自分らしく ゆっくりと のんびりと」を運営理念とし利用者の思いを実現出来るような暮らし方を目指し介護に取り組んでいます。職員は常に利用者向き合い全員が楽しめる様に考えています。外出行事に関して、当日出かけられる利用者にはどうして楽しく出かけられるか、残る利用者にはどうしたら楽しく過ごせるか、近所にあるドライブインでの食事を楽しみ、不公平感が出ないよう、考え実行しています。また利用者はグループホームで、思い思いの場所で自由に寛いでおり、のびのびとした生活が伺われます。管理者は移転以来町内会や近隣地域との交流を大切に考えグループホームの敬老会や避難訓練、味覚祭、演歌コンサートの案内を積極的に行い、きっかけ作りに取り組んでいます。また管理者は、職員への指導は全体会議の場で自身の経験則を話し気づきの中で学び理解出来るように考えています。新しいグループホームでは、にのびのびの無い施設作りを目指し、清潔感のある人、建物になる様、口腔ケアや清掃に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲示し、管理者と職員は共に共有しながら実践に勤めている。	平成16年の開設時に代表者により作成された理念を玄関、ホールに掲示しています。パンフレットに掲載しています。管理者、職員全員が介護の基本として実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加しているが移転して日が浅く日常的な交流には至っていない。	昨年、現在地に移転し、当初から町内会に加入しており、地域の祭りに景品を提供したり、事業所の敬老会や味覚祭の案内を近隣住民に配布し参加を呼び掛けています。ボランティア団体の訪問が有り、演奏会などが行われ交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に、認知症の理解や支援の方法等を説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行い、利用者のホーム内状況サービス等の報告など行い地域住民、家族に参加していただきアドバイスを受け、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議昨年度は、年度途中での事業所移転と言う事もあり4回の開催ではありましたが、本年度は概ね2ヶ月毎、利用者家族、自治会役員、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員等の出席を得て開催され、意見を得てサービス向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議ごと市町村の担当者が参加され事業所の状態を報告し、ケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。	自治区担当者や市担当者とは運営推進会議への出席や報告書の提出、介護保険の情報を得たり、保護課での相談を行い積極的に協力関係を構築しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準における禁止となる具体的な行為を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	管理者、職員は身体拘束が及ぼす弊害や指定基準における禁止対象となる具体的な行為を外部研修や全体の職員会議において正しく理解しています。利用者の状況を理解しながら、身体拘束の無い介護に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修会を持ち、生活記録、利用者の状態を把握して虐待が見過ごされることがないようにお互いに注意を払い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修をしているが、活用支援までは行かない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定等の際は、利用者や家族等の疑問を伺い、説明を行い理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明時に利用者、家族から意見、要望を聞き、それらを運営に反映させている。	利用者の要望はその都度反映できるよう努めており、日常の様子は2カ月毎の「夢だより」通信や担当者による個人便りで家族にお知らせしています。また、家族の要望は面会時の会話の中で把握して運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月開いている全体会議で職員の意見を聞き、運営に反映する様に努めている。	管理者は毎月の全体会議で職員の意見や要望を把握しています。会議ではフランクに何でも発言できる雰囲気を作り、自由な発言の場と成っています。また、管理者は一対一での注意ではなく公の場で、自分の経験則での話で気づきを促しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の努力や実績を把握し、給与水準、各自が向上心を持って働けるよう職場環境改善努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で研修を受ける機会を設け、施設内で取り組むように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の同業者との交流はあまり出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面談で本人の困りごと、要望等を聞きながら信頼関係を築よう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接の時に家族等が困っていること、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めているケアプラン等に反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等の思い要望を伺い、必要としている支援と他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人を介護される一方の立場に置かず、その人の力量にあわせて、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族訪問時、要望、意見を伺い、暮らしを出来る限り共にする者同士の関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで大切にしてきた人との関係が途切れないように支援に努めている。	利用者馴染みの美容室への訪問希望が有り、その都度事業所に対応して関係が途切れない様に取り組んでいます。また、利用者同士が旧知の間柄であり思い出話を楽しんでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーションを通じ利用者同士の関係を深め、また職員が間に入り、関わり合い、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、これまでの関係性を大切に、必要に応じて本人・家族の悩み事や相談の支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向の把握に努め、本人本位のケアを検討している。	利用者一人ひとりの暮らし方の希望や意向は、日常の会話の中で把握し、困難な場合は、家族との会話の中で把握し、実現に向けて取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や暮らし方、生活環境を考えながらサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの個人記録があり、その日の現状を把握し対応など、毎日申し送りをしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に会議を開き、モニタリングする事で、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は概ね3ヶ月毎に見直しを行っています。遠方の家族とは、来訪する時に改めて直接介護計画の説明を行い理解を得ています。見直しは全体会議でのカンファレンスやモニタリングを経て、担当職員やケアマネージャーにより現状に即した介護計画が作成されています。	生活記録が、ケアプラン見直しの参考になる様な記録の取り方等の工夫を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、変化は個人記録に記載し、職員間で情報の共有をしながら介護、介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	其の時の状況に応じて、事業所が出来る最大限の支援、サービスの多様化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、その人の力量にあった暮らしを、楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけの病院に受診、また往診に来ており、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者の希望するかかりつけ医の受診は事業所が対応しています。2週間に1回の訪問看護と協力医療機関の往診により健康管理が行われています。家族には状況に応じ報告し情報を共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の情報を訪問看護に伝え、相談し適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者と情報交換や相談などを行い、早期に退院できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針は、本人、家族、関係者と話し合い、事業所でできる事を十分に説明し、チームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期についての指針があり、看取りを前提に契約時、利用者や家族に説明し全員と同意書を交わしています。家族の希望や意向を確認しながら医療機関と連携し取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変など、一部の職員は応急手当や初期対応の訓練を受けているが、定期的には行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、昼夜に分けて定期的に行っているが地域との協力は出来ていない。	年2回消防署の立会いのもと昼夜想定で避難訓練を実施しています。近隣住民へ避難訓練のチラシを配布し参加を呼び掛け協力をお願いしています。	火災以外の災害に対するマニュアルの整備と対策を構築することを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格、誇りを尊重し傷つけぬ様に、その人に合った言葉かけや対応をしている。	利用者一人ひとりに合った声掛けで不安にさせないように心掛け、人格や尊厳を損ねないように努めています。個人ファイルは戸棚に収納しプライバシー確保に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望、意見を聞き、自己決定できるように、耳を傾け、表情などでも読み取るよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向、ペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師の依頼、清潔な服装等本人の意志を尊重しながら支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の力に応じて、職員と利用者が一緒に、食事の準備と後片付けをしている。	利用者の希望や季節の物を取り入れ、調理専門の職員が食事を作っています。誕生日の時はお寿司やケーキ、外食の焼肉などは利用者の楽しみになっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や、水分量を、記録に残しており、その人に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内状態を見ながら本人の力に応じた、口腔ケア介助、支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人のできる力や、排泄パターンを活かしてできない部分を支援している。	利用者の排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄を促し自立に向け取り組んでいます。また、新聞紙の特性を利用した防臭対策にも取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、ヨーグルト・カッゲン等の提供予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を元に、一人ひとりの体調、希望を聞き入浴の支援をしている。	利用者の体調や希望に合わせて週2回を基本に支援しています。同性介助の利用者にも対応し、広くて明るい浴槽でゆっくり寛げるよう配慮しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の生活状況に応じて休息したり、夜間は静かな環境に心がけ、よく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、用量を理解し2人で確認しながら服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の力を生かした役割をもち、楽しみごとを見つけ張り合いのある日々を過ごせるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、行事等で外出できる様に希望を聞き支援している。	玄関先にイスを置きいつでも日光浴ができる様取り組んでいます。町内の夏祭りや道の駅へドライブに出かけてたり、家族と一緒に温泉に行く利用者もあり、地域や家族の協力を得ながら利用者の気分転換に繋げています。また、出掛けられない利用者には不公平感の起きない様近隣のレストランでの食事を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を所持し使うことはあまりない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、玄関に花を置き利用者が穏やかに生活できる様に、音楽をながしたり、思い出の写真飾っている。	居間は温湿度に配慮され、ソファで昼寝をしたり思いのままに寛いでいます。行事の写真や季節に応じた飾りがされゆったりと居心地良く過ごせる共用空間となっています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内また、外にベンチを置き気の会った者同士で思い思いに過ごせるような居場所を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望や家族と相談しながら、使い慣れた物や使用しやすいものを置き、心地よく過ごせる工夫をしている。	居室には利用者にあったベットや使い慣れた茶たんす、テレビ、ソファ、家族写真、自分が書いた書道が飾られ安心して過ごせるよう工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人が、混乱や失敗のないよう、自立して暮らせるように、部屋には表札を掛け、トイレなどすぐ分かる様に目印をつけている。		